

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
病院薬剤師へのタスク・シフト/シェア普及に対する阻害要因の把握と
その解決に向けた調査研究 (22IA0101)
令和4年度 分担研究報告書

「病院薬剤師から他職種へのタスク・シフト/シェアの取組みに関する実態の把握、分析」
研究分担者 米澤淳 京都大学・准教授

研究要旨

病院薬剤師のタスク・シフティングは必ずしもすべての病院で進んでいるわけではなく、進展の阻害要因の解明が求められる。本研究では、調剤業務に焦点を絞り、インタビューによる意識やニーズの変化に関する質的調査を実施した。研究プロトコルを作成し、倫理委員会の審査を受け、承認が得られた。1施設でインタビュー調査を実施し、さまざまなキーワードが得られた。研究計画の立案は完了し、パイロット調査を開始している。当初の研究計画どおり研究が進んでおり、引き続き、研究を遂行していく。

A. 研究目的

令和3年9月30日に厚生労働省から「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」が発出され、現行制度の下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例や、推進するに当たっての留意点等が示されている。医師から薬剤師へ薬剤関連業務をシフトすることで、医師の業務負担軽減のみならず、医薬品適正使用や医療安全の推進の効果が期待される。しかし、病院薬剤師へのタスク・シフティングは必ずしもすべての病院で進んでいるわけではなく、進展の阻害要因の解明が求められる。すなわち、病院薬剤師業務をより効率的で生産性の高い業務構造に変革するための現状課題の抽出、論点整理が必要である。

令和2～3年度に実施された厚生労働科学研究「病院薬剤師へのタスク・シフティングの実態と効果、推進方策に関する研究」

(研究代表者:外山聡)の調査では、多くの施設で病院薬剤師へのタスク・シフティングが実施されていたが、その業務量は1週間で10時間程度とかなり少ないことが明らかとなった。また、「タスク・シフティングの推進に係る施設特性を明らかにする必要がある」と考察されている。本研究では、これまでの大規模調査研究で明らかになった全体像をもとに、各実施施設での「病院薬剤師から他職種へのタスク・シフト/シェアの取組みに関する実態」を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

病院薬剤師から他職種へのタスク・シフ

ト/シェアは多岐にわたるが、詳細に要因を分析するために、今回は調剤業務に焦点を絞る。

初年度には研究代表者、分担研究者ならびに関連学会や行政などの有識者と議論を行い、インタビューによる意識やニーズの変化に関する質的調査と、業務時間変化の量的調査の調査プロトコルを設定する（調査対象[薬剤師等]、比較対象[前後比較、施設間比較]なども検討する）。決定したプロトコルに基づいて京大病院及び関連病院でパイロット調査を実施するとともに倫理申請を行い、プロトコルを最終決定する。また、これまでの日本病院薬剤師会の調査結果に基づいて、大規模病院、中小規模病院それぞれから 5 施設ほどの調査協力施設を選定する。

（倫理面への配慮）

研究実施にあたり京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け承認され、協力研究実施施設の承諾を得て実施した。

C. 結果

2023 年 3 月までに 7 度の班会議を実施しながら、インタビューによる質的調査と業務時間変化の量的調査（薬剤師及び医師を対象）に関する研究プロトコルを作成した。京都大学 医の倫理委員会の審査を受け、承認が得られた【課題名：病院薬剤師のタスク・シフト/シェアに関する調査研究：混合研究法、承認番号：R3737、承認日：2023 年 2 月 1 日】。

発行番号R3737-12023年02月01日

許 可 書

研究責任者
所 属：医学部附属病院 薬剤部
職 名：教授
氏 名：寺田 智裕 殿
課題名：病院薬剤師のタスク・シフト/シェアに関する調査研究：混合研究法
上記課題の実施につき、下記の通り判定したので通知します。

審査事項	<input type="checkbox"/> 新規申請	<input checked="" type="checkbox"/> 変更・追加申請
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 承認	<input type="checkbox"/> 意見付承認
	<input type="checkbox"/> 承認取消	<input type="checkbox"/> その他
備考		

本課題を承認される際には、ヘルシネス宣言および関連法規、機密等の措置を十分に考慮して、研究計画書記載の内容から逸脱することなく実施していただきたいと存じます。

京都大学大学院医学研究科長 伊藤 正 公印省略

京都大学医学部附属病院長 宮本 亨 公印省略

また、以下の 6 施設において、研究実施の承諾を書面で得た。

大学病院：岡山大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、三重大学医学部附属病院

一般病院：伊勢赤十字病院、大垣市民病院

2022 年度中に神戸大学医学部附属病院にてインタビュー調査を実施し、研究計画に基づいて実施可能であることが確認できた。また、得られたキーワードを下図にまとめた。

キーワードの一覧表_助手		
きっかけ	業務拡大	ケモ室の業務負担増加
	機械化	機械化による質の担保
		外部評価での指摘
促進要因 (解決策)	安全性	機械化による安全性の担保
	機械化	機械の管理要因
	業務整理	薬剤師業務の整理
	取り決め	手順書、研修の整備
	連携し 交渉	事務との連携
	雇用	資格制度による定着
	意識	意欲の向上
	環境	流れに乗る
	経済面	能力ある人を雇える環境
	人員補充	機械のコストダウン
阻害要因	法律	法律による制限
	リスク	責任の所在
	給与	薄給
	意欲	スキルアップがない
	余力	余力がない
	知識 能力	知識・能力不足
	雇用	有期→継続困難
	人手不足	人数不足

D. 考察

研究計画の立案は完了し、パイロット調査を開始している。引き続き、研究を遂行していく。

E. 結論

当初の研究計画どおりに研究が進んでいる。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし